

神戸空港サブターミナル整備基本計画 (改定案)



令和6年1月

海に浮かび、 森を感じる。

- 神戸の歴史と伝統、
山・海、豊かな自然との調和
- 神戸らしさ香るおもてなし
- ユーザーフレンドリーで
快適・質の高い旅の始まり



どのような施設となるのか



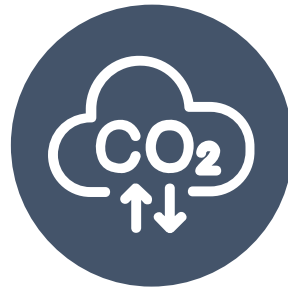
自然・歴史・文化と
調和する施設



おもてなしの心とにぎわいを
大切にする空間



利用者に優しく
ストレスフリーで健康な旅

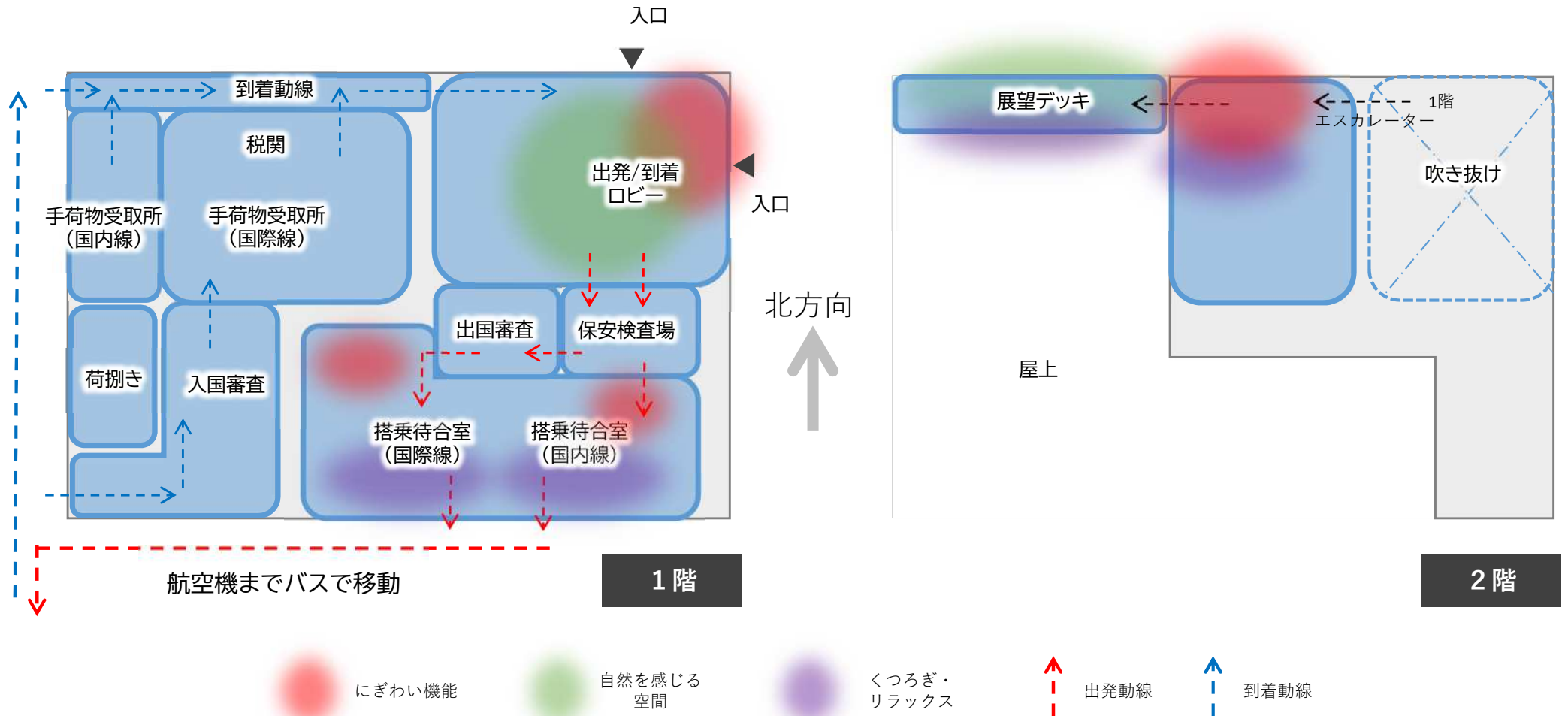


地域木材の活用
カーボンニュートラルへの対応



災害対策拠点となる
防災機能の確保

どのような施設となるのか



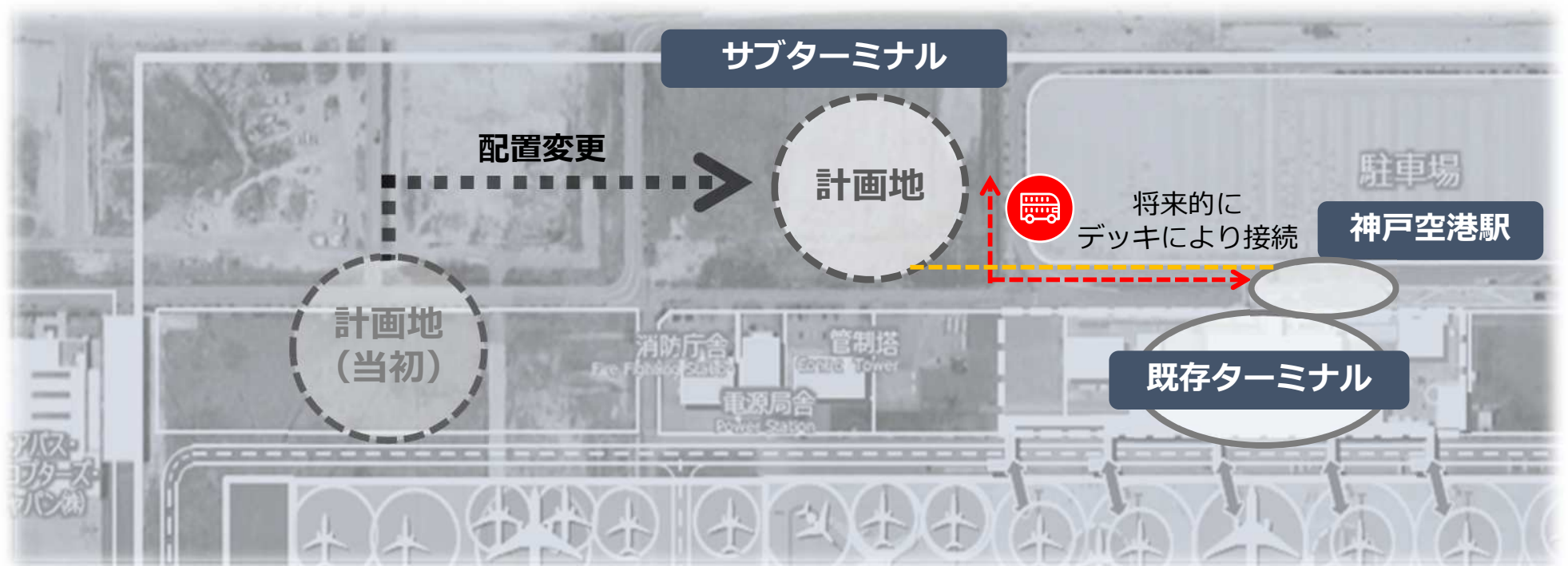
延床面積 約18,700m² (当初 約17,000m²)

どのような施設となるのか

既存ターミナルとの円滑な移動を提供

新たな駐車場、バスやタクシーが利用しやすい乗降施設の整備

誰もがスムーズに移動できる施設



なぜ、サブターミナルを整備するのか

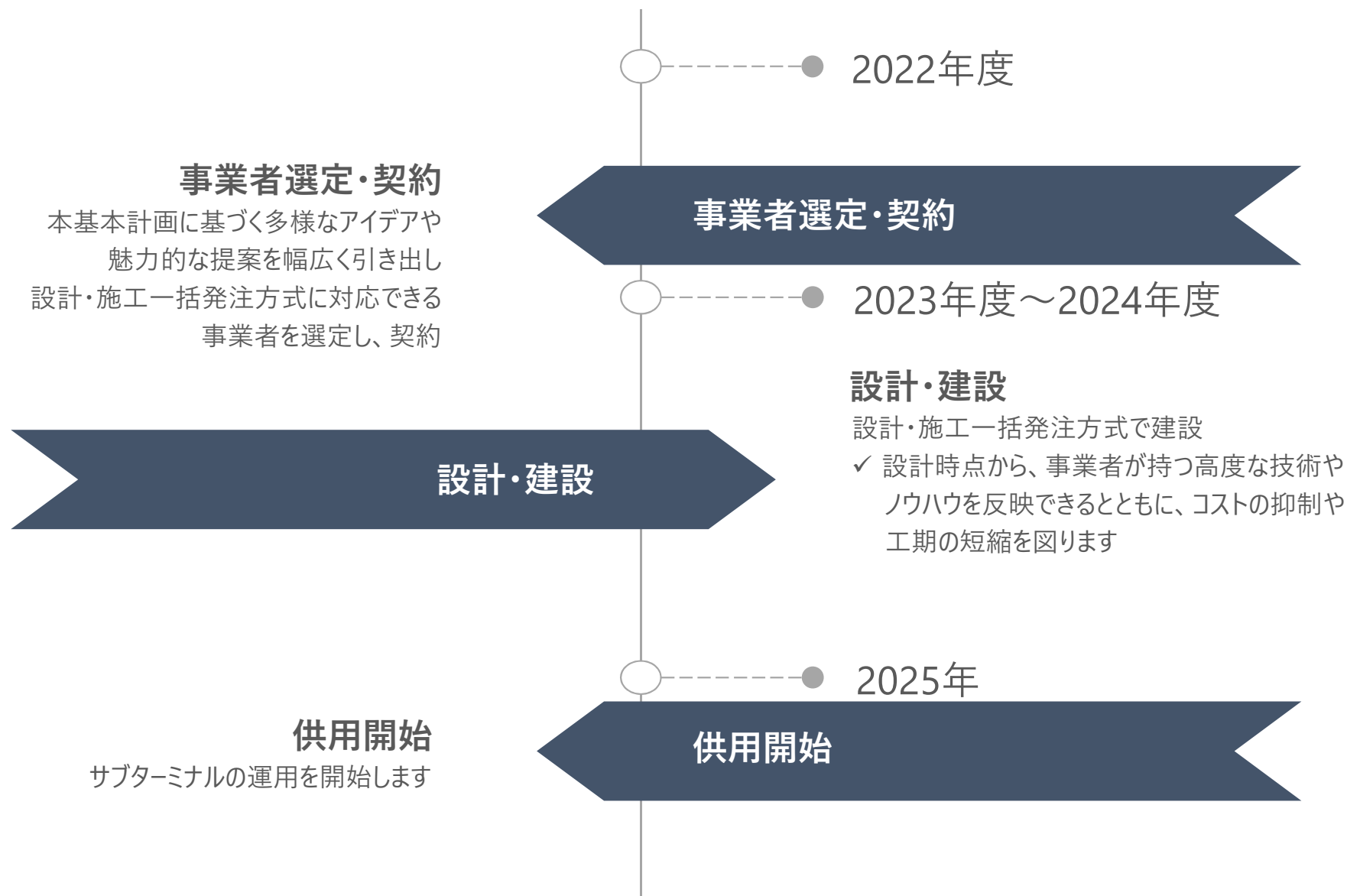
今後、高まる航空需要の取込 **+**

神戸空港は、都市型の海上空港として、2006年2月に開港し、現在、全国12都市への国内線ネットワークを形成しています。

2025年に開催される大阪・関西万博開催時には、神戸空港の航空需要が拡大します。現行ターミナルは施設規模・内容が今後の航空需要に対応できず、新たにサブターミナルが必要になります。

この拡大する国内線や国際チャーター便需要に対応し、旅客や市民の皆さんに安全かつ快適に神戸空港をご利用いただくため、国内・国際一体型のサブターミナルを整備し、賑わい・利便性の向上を図ります。

どのようにサブターミナル整備を実現するか



(参考) 機能拡張に要する事業費

	概算事業費	(参考) 当初計画
空港基本施設 (エプロン拡張整備等)	約100億円	約143億円
サブターミナル	約150億円	約90億円
付帯工事	約33億円	約50億円
合計	約283億円	約283億円

※1：当初計画は令和4年10月に公表。

※2：サブターミナルは借入金により整備し、空港施設利用料や賃料等により償還。

(参考) 現在の神戸空港の概要

	概要
設置管理者	神戸市
開港日	2006年2月16日
面積	約156ha
滑走路	1本（長さ2,500m、幅60m）
スポット	10スポット
発着回数	1日最大80回（開港当初60回）
運用時間	7時～23時（16時間）
年間旅客数	約323万人
ターミナルビル	総延床面積：18,600㎡（鉄骨造4階建）
駐車場	約2,100台 （第1駐車場 約1,500台、第2駐車場 約600台）
アクセス	神戸三宮から ポートライナー：約18分 バス：約22分



神戸空港の位置



神戸空港（航空写真）

(参考) サブターミナルの施設整備概要

(1) 計画地の概要

所 在：神戸市中央区神戸空港1

(2) 敷地条件

用途地域：準工業地域

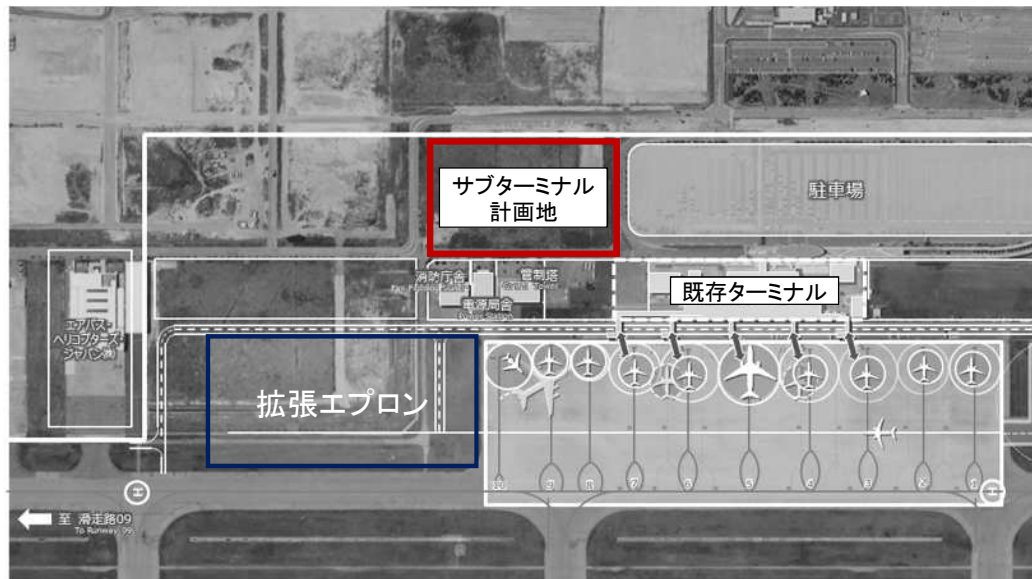
容 積 率：200%

建 蔽 率：60%

(3) 建物の規模

構 成：2階建て

延床面積：18,700㎡



(4) 導入機能

①ロビー機能

ロビーでは、搭乗手続きのスムーズ化、送迎者の待機場所の確保、総合案内機能、両替所などのサービス機能を配置するとともに、山・海を望む賑わい施設を配置

②国内線エリア機能

搭乗者のスムーズな保安検査、空の旅の始まりを心地よく過ごせる搭乗待合室、商業施設、手荷物受取所などを配置

③国際線エリア機能

国内線エリアの機能に加えて、スムーズな出国審査、入国審査を行うことができる施設を配置

④その他機能

国際線に必要となる出国・入国審査のためのCIQ事務所、運航する各航空会社の事務所、建物に必要な機械室等を配置